

令和6年度 総理研課題 研究追跡調査報告書

研究課題名	山梨の自然環境を活かした水稻高品質栽培法の開発	
研究期間	令和3年度～5年度	
記入者	高橋真史	
研究開発成果	<p><研究成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の灌漑水や水田土壤に含まれるケイ酸含量を分析した。灌漑水中のケイ酸含量は、火山性地質の河川から取水している圃場で高く、非火山性地質の河川から取水している圃場で低い傾向であった。水田土壤のケイ酸含量は、火山灰土の水田で高く、非火山灰土の水田で低い傾向を確認した。 ・県内に流通するケイ酸資材を用い、水稻の収量・玄米外観品質へ与える効果について比較、検討を行った。有効と確認されたケイ酸資材を用いたケイ酸含量が低い圃場で栽培実証を行ったところ、「農林48号」では增收効果が確認できた。さらに高温条件下において、「コシヒカリ」、「農林48号」で玄米外観品質を改善する効果があることを明らかにした。 ・県内におけるケイ酸含量マップを作成するとともに、生産農家がケイ酸資材の要否を判断できるケイ酸施肥基準値を設定した。 <p><産業財産権等についても記入すること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当なし 	
	研究成果の普及方法 (研究・学会発表、学会誌掲載等)	研究成果の活用状況 (産業的・経済的効果、実施許諾等)
令和6年度 (初年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度成果情報(予定) 「水稻高温障害軽減につながるケイ酸施肥のためのケイ酸含量推定マップと施肥判定フロー」 ※令和5年度成果情報(発表済) 「水稻の高温登熟年におけるケイ酸資材施用による収量・品質への効果」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケイ酸施肥の要否判定を生産農家が判断できるよう、水田土壤や農業用水からのケイ酸天然供給量を推定するマップを年度内中を目処に県HPへ公表予定。 ・水稻講習会等を通じて水稻生産農家へ当該技術について周知を実施。
令和〇年度 (2年目)		
令和〇年度 (3年目)		